◎今週の御言葉 「わたしのことばを聞いて行う者」(エレミヤ書7章1節～7節、マタイの福音書7章15節～29節)
「イスラエルの神、万軍の主は、こう仰せられる。あなたがたの行ないと、わざとを改めよ。そうすれば、わたしは、あなたがたをこの所に住ませよう。」(7:3)「ですから、わたしのこれらのことばを聞いて、それを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人にたとえることができます。」(7:29)

◎私たちは何かをする場合、その根底にある土台を何におき、その上にどの様な家を建てようとしているのでしょうか？

◎エレミヤ書7章～8章3節の主題は「神殿における説教」です。エレミヤがエルサレムの神殿で語った説教は、26章の神殿説教が並行記事であるとすれば、エホヤキム王が即位した年(26:1、BC609年)の秋から冬に当たります。

◎神様はエレミヤに、神殿に行って礼拝する者たちに神様からのメッセージを語るように命じられたのです(1, 2)。その要点は、①民がもし悔い改めるならエルサレムに安住することが出来る(3)。②神殿は神様が住んでおられるので安全だと機械的に考えてはならない(4)。③民が公義を行い、不義を避ける時にのみ(5-6)、神様は彼らを約束の地に留まらせて下さる(7)。民は、偽りの神殿信仰に立ち(8)、不義と偶像礼拝に陥っていながら(9)、救いの確信を表明している(10)。それは神殿を強盗の巣にするようなものである(11)。

神様は真の「礼拝する」者を求めておられるのです(2)。民が異教の神々に供え物をささげて礼拝し(17-18)、神様の憤りを引き出しているから(19-20)、神様はエレミヤに「民のために祈るな」と命じられたのです(16)。礼拝を重んじよ。

◎マタイの福音書5章～7章は山上の説教で、御国に召された者の正しい生き方が語られている。主題は「メシヤの宣教」で4分解される。①5:1-16、天国に入る者の特徴、②5:17-48、天国の戒め、③6:1-7:12、天国の民の生活態度、④7:13-29、天国の民に対する警告。今日は④の部分からです。ここに、二つの道(13, 14)、二つの木(15-20)、二つの告白(21-23)、二つの家(24-27)の教えが示される。律法学者は、伝承に権威を置いた。キリストの権威はご自身のものであった。

聴衆はその違いに感づき、イエス様の教えを「新しい教え」として聞き(マルコ1:27)、あるものはそれに心動かされた。

◎最後に語られた「二つの家」の話は、外観では判断できないが、自然災害などに襲われたときにその違いが顕著に表れるのです。私たちは昨日も今日も永久に変わることのない「いのちのみ言葉」に聴き、従って堅実な歩みをさせて戴くことを祈り求めて生きたい。